

# 令和4年度 東京都立文京高等学校 学校経営報告

## 1 今年度の取組と自己評価

### (1) 教育活動への取組と自己評価

#### ア 学習指導

- ① 学力スタンダードに基づく教科の到達目標を明確にし、教科内及び教科間の連携を深め、授業内容や方法の工夫・改善、授業時数の確保や家庭学習の促進、指導と評価の改善、教材・授業内容・定期考査問題の共通化、ICT機器の活用やアクティブラーニングによる授業改善、コミュニケーションやプレゼンテーション能力の向上に向けた取組など、学力向上を目指す学習指導の充実を図った。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の対策を図り、「学びを止めない」を合言葉にオンライン授業も併用した授業を行った。
- ② 土曜授業、習熟度別授業（数学、英語）、進学対策の選択科目、国公立大学進学対応クラスの設置など、生徒の理解度や目的に応じた指導を行い、学力向上に向けた学習指導の充実を図った。
- ③ 数値目標である、自主学习室平均利用人数（1日当たり）は57.0人（昨年度45.0人）と、全学年での利用が拡大し、授業時間以外での学習の習慣が定着してきた。大学入学共通テスト得点率60%以上の人数は卒業生数の68.7%にあたる239人（昨年度205人）と昨年度を上回り、学習指導の充実が結果に結びついた。長期休業中の講習講座延べ日数は280日（昨年度300日）と、昨年度を若干下回ったが今年も多く講座数を開講した。全学年全クラスで始業前の朝学習を実施し、自学自習の習慣が定着し、生徒の学力向上に結びついた。

#### イ 進路指導

- ① キャリア教育の全体計画に基づき、進路部と学年が連携し、将来設計に基づいた計画的・組織的な進路指導を行った。コロナの状況が落ち着いたことから、例年行っている進路行事や面談等を対面で行うことができた。前年度までの進路実績の向上が良き伝統となり、早い段階から進路意識を高めるホームルーム活動での指導などにより、キャリア教育の充実を図った。
- ② 教科主任会及び教科会の定期的な開催により、教科指導及び進学指導の実践力を高めるとともに、東京都教育委員会指定の「進学指導研究校」として、模試分析結果を基にした全教員参加の進路研修会を年間3回開催し、確実な学力の向上と目標大学合格に向けた進路指導の取組を、学校全体が一体となり組織的に進めるよう進めた。
- ③ 合格実績としては、国公立大学27人（昨年度27人）、早慶上理26人（昨年度39人）と昨年度を下回ったが、難関私立大学（GMARCH）は264人（昨年度274人）と前年度並みの高い合格者数であった。GMARCH以上の難関上位校への合格者数の卒業生徒数に対する割合が昨年度96.6%であり、今年度は100%を目標としたが、91.4%と数値上は届かなかった。しかし、文京高校での学びが難関上位校合格に結びつくという文京スタンダードは定着してきた。

#### ウ 生活指導

- ① 「規律ある自由」の精神を正しく理解させ、学校生活のあらゆる場や機会において、規範意識を高め、自分で判断し決定し実行する自己指導能力を高める指導を行った。遅刻防止指導や身だしなみ指導を行うとともに、集団生活におけるルール、マナー、モラルを身に付けさせ、自律的な生活態度とお互いを尊重する態度の育成を図った。
- ② 体罰根絶、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に取り組むなど、人権尊重の教育を推進した。
- ③ 感染防止策を講じながら、例年行っているセーフティ教室などの生活指導行事を対面予定どおり進めることができた。未然防止や予防的指導の観点で、問題行動防止や犯罪被害防止などの指導を充実させ、事故や事件は無く、特別指導も一件も無かった。

## エ 特別活動・部活動

- ① 東京都からの通知等に基づき感染症対策を講じながら、予定していた学校行事を事故なく実施できた。3年ぶりに実施した沖縄修学旅行も、万全な準備と生徒の自覚ある行動により、感染者もなく無事実施できた。生徒自治会や行事実行委員会等の活動を支援し、初めて経験する3学年同時に行う体育祭や文化祭、球技大会などを実施し、集団や社会の一員としての自覚と行動力、社会の発展に貢献しようとする自主的・実践的な態度を育成することができた。
- ② 本校が目指す「文武両道」の精神のもと、部活動加入率 100%（昨年度 100%）を達成し、部活動の活性化や競技力の向上を図るとともに、成就感や自己肯定感を高める指導を行った。特別活動・部活動も重要な学びとして捉え、コロナ禍においても、感染防止の取組を徹底し、生徒の自主的・自発的な活動を支援した。
- ③ 数値目標として掲げた関東大会レベル以上出場部活動は2部（昨年度2部）と、目標値を達成することができなかったが、各部活動が高い目標の実現に向け工夫して練習に取り組むことができた。

## オ 健康・安全

- ① 東京都教育委員会からの通知やガイドラインなどに基づき、新型コロナウイルス感染症への感染防止対策を全校挙げて取り組んだ。結果として、校内での感染拡大はなかった。
- ② 教育相談委員会を年間6回（昨年度6回）開催し、スクールカウンセラーを活用した教育相談体制の充実を図り、長期休業明けのアンケートを実施するなど、生徒一人一人に応じたきめ細かい指導を組織的に行うとともに、学校不適應の未然防止や自殺予防に向けた取組を定着させた。
- ③ 防災訓練を含む避難訓練を年間4回実施し、災害に対する自助の力と共助の精神を育むための防災教育を進めた。また、保健講話も対面で実施することができた。

## カ 募集・広報活動

- ① 感染防止対策を講じながら多くの方が説明会に参加できるよう、1回あたりの人数を限定し実施回数を増やすなど開催方法を工夫した。学校独自で実施した学校説明会（個別相談や中学校単位での説明、部活動体験などを除く）への参加人数は4,860人（昨年度2,832人）と昨年度を大きく上回り、多くの方に本校の特色や教育活動の成果を伝えることができた。そのことが、高い応募倍率の維持につながった。
- ② ホームページの更新を迅速かつ定期的に行い、年間245回（昨年度180回）の昨年度を大きく上回る更新を行い、外部に積極的に情報発信をした。
- ③ 入学者選抜の応募倍率は、中進対倍率が1.46倍（昨年度1.65倍）、推薦に基づく選抜では3.28倍（昨年度3.86倍）、学力検査に基づく選抜では1.74倍（昨年度1.84倍）と、昨年度を若干下回ったが、昨年度大きく回復した高い応募倍率を維持することができた。

## キ 学校経営・組織体制

- ① 企画調整会議を中心とした学校経営を行い、管理運営規程に基づく学校運営を徹底し、組織的な業務遂行と学校運営を進め、諸課題の解決に向け組織的に取り組んだ。
- ② 経営企画室との連絡・調整・連携を強化し、迅速かつ効率的な業務を遂行し、事業の充実と推進に取り組んだ。
- ③ プール改修、全室エアコン工事、昇降口天井工事などの大規模工事を、教育活動との調整を定期的に行いながら円滑に進めた。

## (2) 重点目標への取組と自己評価

- ① 【学習指導】土曜授業、習熟度別授業（数学、英語）、進学対策の選択科目、国公立大学進学対応クラスの設置など、生徒の理解度や目的に応じた教育課程を編成し、進学校として進学に向けた学力向上を図る指導を充実させた。授業においては、授業時数を確保し、新学習指導要領や大学入学共通テストに対応した授業内容や授業方法を工夫し、生徒の理解度や目的に応じた適切な内容・負荷・スピードによる指導を行うとともに、主体的・対

話的で深い学びの実現に向け、ICT機器や今年度から導入の生徒一人1台端末の活用や、アクティブラーニングによる授業改善に取り組み、生徒の学びの質を高める指導を進めた。全学年全クラスで始業前の朝学習を毎日実施するとともに、放課後等の授業時間以外での講習や夏期・冬期講習などの受験指導も充実させた。自主学习室平均利用人数（1日当たり）が57.0人（昨年度45.0人）と大きく増加するなど、授業時間以外での主体的な学習の習慣が定着し、進学に向けた学力の向上を図る学習指導を充実させることができた。教科主任会及び教科会を定期的に開催し、授業、家庭学習、補習・講習などの内容や方法を調整し、学校全体で組織的に学力向上に向けた学習指導の推進を図った。新型コロナウイルス感染症対応も踏まえ、オンラインの積極的活用・定着にも取り組み、学習内容の確実な定着と学力向上を目指す効果的な学習指導を計画的に進めた。

- ②【進路指導】3年間を見通したキャリア教育を推進し、組織的・計画的に将来設計に基づく進路指導を進め、伝統ある進学校として進学指導を一層充実させ、国公立大学や難関私立大学への現役合格者数の増加など、進学実績の向上を目指し取り組んだ。東京都教育委員会「進学指導研究校」の指定を受け、一昨年度から年間3回全教員参加で実施している進路研修会を活用するなど、模試分析等による生徒の学力診断結果を教科内及び教科間で検証し、進路目標実現に向けた指導の改善・充実結び付けた。結果として、国公立大学27人（昨年度27人）、早慶上理26人（昨年度39人）と昨年度実績を上回らなかったが、難関私立大学（GMARCH）は264人（昨年度274人）と前年度並みの高い合格者数であった。GMARCH以上の難関上位校への合格者数の卒業生徒数に対する割合が昨年度96.6%であり、今年度は100%を目標としたが、91.4%と数値上は届かなかった。しかし、文京高校での学びが難関上位校合格に結びつくという文京スタンダードは定着してきた。
- ③【生活指導】「規律ある自由」の精神を正しく理解させ、学校生活のあらゆる場や機会において自己指導能力の育成を図り、生徒の規範意識や人間性を高め、文京生であることへの自覚と誇りをもたせ、自律的な態度や行動を育成する指導を行った。数値目標として掲げた1日当たりのクラスの平均遅刻人数は、始業前の朝学習が定着したこともあり、0.3人（昨年度0.5人）と昨年度よりも更に少ない数であった。例年行っていたセーフティ教室などの生活指導行事を今年度は対面で行うことができ、生徒の行動や心理に対する想定範囲を広げ、事故や問題行動等の未然防止や予防的指導の観点で指導を充実させ、事故や問題行動等はなかった。
- ④【特別活動・部活動】「至誠一貫」の校訓のもと、学習面だけでなく、特別活動や部活動もひたすらに実践する生徒を育成するため取り組んだ。特別活動・部活動も重要な学びとして捉え、コロナ禍においても学びを止めない方針のもと、感染防止の取組を徹底し、3学年同時に行う体育祭や文化祭、3年ぶりに実施となった沖縄修学旅行など、事故なく実施し成果を上げた。今年度も部活動加入率は100%であり、「文武両道」の精神のもと、「部活動に係る活動方針」に基づき、運動部・文化部共に、事故やけがの防止に努め、効率的・効果的な部活動を実践し、学校生活の充実と、学校への帰属意識を高めた。数値目標として掲げた、関東大会レベル以上出場部活動は2部（昨年度2部）と、目標値を達成することができなかったが、各部活動が感染防止策を講じながら高い目標の設定と実現に向けた質の高い部活動を進めた。
- ⑤【健康・安全】東京都教育委員会の通知やガイドラインなどに基づき、新型コロナウイルス感染症防止対策を全校挙げて取り組んだ。結果として、校内での感染拡大はなかった。感染しない・させない取組が、感染に対する自助・共助の精神を育んだ。防災、健康、安全、個人情報の保護など、学校の危機管理や安全管理について全教職員で取り組み、事故の無い安全・安心で健康な学校づくりを行うことができた。教育相談委員会を年間6回（昨年度6回）開催し、スクールカウンセラーを活用した教育相談体制の充実を図り、長期休業明けのアンケートを実施するなど、学校不適應の未然防止や自殺予防に向けた組織的取組が定着した。引き続き、学校事故ゼロを継続していくよう取り組んでいく。

- ⑥【募集・広報活動】感染症対策を徹底した学校説明会、学校見学会、塾対象説明会、授業公開、部活動体験入部などを実施するとともに、外部での学校説明会にも積極的に参加し、募集・広報活動を充実させた。学校で行う説明会では、感染症対策で1回あたりの人数を限定し実施回数を増やすなど開催方法を工夫し、延べ4,860人（昨年度2,832人）の参加者数であった。そのことが高い応募倍率の維持につながり、入学者選抜の応募倍率は、中進対倍率が1.46倍（昨年度1.65倍）、推薦に基づく選抜では3.28倍（昨年度3.86倍）、学力検査に基づく選抜では1.74倍（昨年度1.84倍）であった。昨年度に続きホームページの更新を迅速かつ定期的に行い、年間245回（昨年度180回）と昨年度を大きく上回る更新を行い、外部に積極的に情報発信をした。
- ⑦【学校経営・組織体制】組織的な学校運営を進め、諸課題の解決を図った。学校の特色化を更に進めるよう、これまでの教育の内容や成果を検証し、更なる教育活動の充実・発展に向けた取組を進めることができた。

### (3)「今年度の数値目標」の実績

[ ]内は令和3年度実績

- ① 長期休業中の講習講座延べ日数300日以上  
280日 [300日]
- ② 自主学习室平均利用人数（1日当たり）50人以上  
57.0人 [45.0人]
- ③ 大学入学共通テスト得点率60%以上の人数265人以上  
239人 [205人]
- ④ 国公立大学合格者数40人以上  
27人 [27人]
- ⑤ 難関私立大学（早慶上理、GMARCH）合格者数320人以上  
 $26 + 264 = 290$ 人 [313人]
- ⑥ 現役大学進学率90%以上  
90.8% [89.8%]
- ⑦ 遅刻者の全生徒に対する割合（1日当たり）1%以内  
0.3人 [0.5人]（1日当たりのクラス平均遅刻人数）
- ⑧ 1年生部活動加入率100%以上  
100% [100%]
- ⑨ 関東大会レベル以上出場部活動5部以上  
2部 [2部]
- ⑩ 図書館の年間貸し出し冊数4,500冊以上  
2,825冊 [3,457冊]
- ⑪ ホームページ年間更新回数200回以上  
245回 [180回]
- ⑫ 学校説明会の来場者数（1回あたり）1,000人以上  
540人 [750人]（感染防止対策として1回あたりの人数を制限したため）  
来場者延べ人数 4,860人 [2,832人]
- ⑬ 入学者選抜応募倍率（学力検査）2.0倍以上  
1.74倍 [1.84倍]

## 2 次年度以降の課題と対応策

### (1) 学習指導

新学習指導要領や大学入学共通テストに対応した授業内容や授業方法を工夫し、生徒の理解度や目的に応じた適切な内容・負荷・スピードによる学習指導を行い、進学に向けた学力の向上を図る指導を一層充実させる。教科主任会及び教科会を定期的で開催し、生徒一人1

台端末の活用を含め、教科内での指導内容や指導方法の共有化を図るとともに、教科間の連携を深め組織的な指導体制を構築し、意図的・計画的に学習指導を進めていく。自主学習室の利用拡大や進学対策講習の充実を図るなど、授業時間以外での生徒の主体的な学習を推進する。

## (2) 進路指導

進学校としての進学指導を一層充実させ、国公立大学や難関私立大学への現役合格者数の更なる増加など、進学実績の向上を目指す。国公立及び難関私大の合格者数の卒業生に対する割合が昨年度 96.6%となったことから今年度目標を 100%とし届かなかったが、教員・生徒ともに目標値にはなつた。文京高校での学びが難関上位校合格に結びつくという、文京スタンダードを一層定着させる。年間 3 回の進路研修会を年間計画の中に位置付け、模試分析等による生徒の学力診断結果を教科内及び教科間で検証し、進路目標実現に向けた指導の改善・充実に結び付けていく。放課後や長期休業中等の授業時間以外での講習等の指導を更に充実させ、進学に向けた指導を充実させる。

## (3) 生活指導

引き続き「規律ある自由」の精神のもと、学校生活のあらゆる場や機会において自己指導能力の育成を図り、生徒の規範意識や人間性を高める。文京生であることへの自覚と誇りをもたせ、自律的な態度を育成していく。近年、高校生や社会において発生している事故や事件等の情報を的確にとらえ、生徒の行動や心理に対する想定範囲を広げ、事故や問題行動等の未然防止の視点で、予防的指導を更に進めていく。

## (4) 特別活動・部活動

「至誠一貫」の校訓のもと、学習面だけでなく、特別活動や部活動もひたすらに実践する生徒を育成する。勉強と部活動を両立させるためにも、部活動に関する活動方針を遵守し、効率的・効果的な部活動を実践する。生徒が主体的に取り組み、事故無く、成就感や自己肯定感を得られるような指導を進めていく。ひたすらに実践した結果が大会等の成績に結びつくよう、高い目標を維持させる。

## (5) 健康・安全

変化する感染症対策に的確に対応し、生徒の命や健康を守り安全・安心を最優先とする教育活動を引き続き進める。学校不適応や中途退学の未然防止及び自殺予防に対する指導や対策を進め、スクールカウンセラーを活用した教育相談体制や、定期的開催する教育相談委員会を機能させ、生徒個々の状況把握と一人一人に応じたきめ細かい指導を組織的に進めていく。防災教育や安全指導を徹底し、災害に対する指導や事故の未然防止を図る。

## (6) 募集・広報活動

できる限り多くの方に本校の特色や教育の成果を知ってもらうことを基本とし、前例にとらわれず広報活動や募集対策を一層充実させる。感染症対策に対応しつつ、これまで制限を受けていた、授業見学、体験授業、出前授業などを実現させ、質の高い教科指導の実態やひたすらに実践する文京生の姿に触れることができる機会を設ける。説明会等で常に伝えている「入りたい学校、入って自分を伸ばせる学校、入って自分の将来の夢をかなえられる学校」として本校を選ぶことができるよう積極的に情報発信をし、入学者選抜の応募倍率の更なる向上と不本意入学の防止を図る。引き続き、ホームページの更新を迅速かつ定期的に行い、本校の教育活動の内容や成果を積極的に外部に発信する。

## (7) 学校経営・組織体制

東京都教育委員会からの指定や支援を受け、教育活動の充実・発展に全教職員が主体的に取り組むとともに、法令・規則等に基づく組織的な学校運営を更に進め、引き続き諸課題の解決を図っていく。